

【重点目標1】 中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。			
具体的取組	実現状況の達成度判断基準	結果	分析(成果と課題)及び改善策
1-1 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りを持ち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑥ 肯定的評価78% 【判定:C】 (前年度:B -3%)	・肯定的評価が、C判定となった。ただし、昨年に引き続き、A「よくあてはまる」と回答した生徒は各学年で30%を越えている。 ・生徒主体の取組とともに教員側からの積極的な評価・指導も併せて行っていく必要がある。
	提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑦ 肯定的評価88% 【判定:B】 (前年度:A -2%)	・肯定的評価が、B判定となったが、前年度から-2%の減少であるため大きな変化とは言えない。2年生の肯定的評価が1年時の同時期とくらべ-12%減少している。 ・2年生は、今年度も引き続き課題である。計画性の重要性に気づかせたり、基礎の確立の大切さを伝えたりするなど、工夫しながら継続的に指導していく必要がある。
1-2 健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	規則正しい生活をするともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑧ 肯定的評価91% 【判定:A】 (前年度:A +1%)	・前年度に引き続き高い評価である。また、保護者アンケートで87%、教職員アンケートでも89%と高い評価となっている。 ・土日の地域移行など、部活動の在り方が大きく変化していく。生徒・保護者も含めた協議を重ね、錦丘中学校らしい部活動を築きあげていきたい。
1-3 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	/	・今年度、6月の第1回の検定の結果、1年生4級が23%、2年生3級が16%、3年生準2級が13%の取得率である。
1-4 朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書が好きである。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑧ 肯定的評価77% 【判定:C】 (前年度:B -4%)	・肯定的評価はC判定となったが、前年度と比べ、-4%であるため、大きく変化したとは言えない。ただし、2年生の肯定的評価と3年生のA「よくあてはまる」と回答した割合が、それぞれ8%減少した。 ・委員会や国語科などの取組で、生徒への働きかけを工夫していく必要がある。
	朝読書に、集中して取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑨ 肯定的評価90% 【判定:A】 (前年度:A -3%)	・大きな変化はなく、A「よくあてはまる」と回答した生徒も、各学年60%前後と高い評価結果であった。 ・落ち着いた学校生活のスタートとして大切な取り組みであることをさらに実感できるよう指導を継続していきたい。
1-5 望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	教職員アンケート 教育活動⑩ 肯定的評価100% 【判定:A】 (前年度と同じ)	・肯定的評価が100%という評価が3年続いている。A「よくあてはまる」と回答した教員も83%と前年度に引き続き高い評価であった。 ・今後も生徒指導主事を中心とした組織的で丁寧な対応を心がけていきたい。
1-6 生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	生徒アンケート⑩ 肯定的評価81% 【判定:B】 (前年度:C +4%)	・肯定的評価がB評価となった。昨年度と比べ大きな変化ではなかったが、全学年で肯定的評価が数%であるが増加した。 ・今年度の研究の重点にも自己肯定感を高めることが含まれるため、引き続き授業、その他の活動のなかで、高める手立てや工夫を行っていきたい。

【重点目標2】 学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましさや粘り強さを伴った確かな学力を育成する。

<p>2-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。</p>	<p>教材研究に取り組み、「授業が良くなる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>授業・学習アンケート 【教師:教材研究】 肯定的評価100% 【判定:A】 (昨年度:B +12%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価が100%となった。A「よくあてはまる」と回答する教員も56%と半数を越えている。</li> <li>後期の研究発表会に向け、更なる充実に向け努力していくよう全体で進めていく必要がある。</li> </ul>
<p>2-2 付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。</p>	<p>授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>授業・学習アンケート (教師) 肯定的評価94% (生徒) 肯定的評価92% 【判定:A】 教師:-6%、生徒:-2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年に引き続き、肯定的評価が90%を越え、高い評価であった。</li> <li>今年度も、ICTの活用や多様性を引き出す発問など、広がりや深まりのある授業が展開できるよう工夫していきたい。</li> </ul>
<p>2-3 基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教える、学びきる指導を行う。</p>	<p>個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>教職員アンケート 教育活動⑨ 肯定的評価82% 【判定:B】 (前年度:C +9%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価が前年度と比べ+9%増加し、B評価となった。ただし、A「よくあてはまる」と回答したのが0%であった。</li> <li>夏期休業を利用した補習やサマースクール等の取り組みは行ってきた。2学期以降にも下位層に焦点を置いた取組を行っていく必要がある。</li> </ul>
<p>2-4 論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。</p>	<p>考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>教職員アンケート 教育活動⑩ 肯定的評価94% 【判定:A】 (前年度:A -1%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度同様、肯定的評価は90%を越え高評価であった。また、A「よくあてはまる」と回答したのが+13%増加した。</li> <li>引き続き指導を続け、少しでも深まりのある授業になるよう工夫を行ってきたい。</li> </ul>
<p>2-5 批判的思考力を育成するため、課題設定、発問、学習形態等を工夫する。</p>	<p>多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>教職員アンケート 教育活動⑪ 肯定的評価88% 【判定:B】 (前年度:A -7%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価が、昨年度と比べ、-7%減少し、88%となりB判定となった。</li> <li>評価自体は、高評価であるため、引き続き、教員の手立てを工夫し、充実した話し合い活動となるよう取り組んで行きたい。</li> </ul>
<p>2-6 高校の学習内容を視野に入れてた発展的課題に取り組むことで、目的意識や向上心を高める。</p>	<p>6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>教職員アンケート 教育活動⑫ 肯定的評価88% 【判定:B】 (前年度:A -7%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価が、昨年度と比べ、-7%減少し、88%となりB判定となった。</li> <li>単なる発展ではなく、高校教科部会とも連携をとりながら、系統性を持たせた教育課程について工夫していきたい。</li> </ul>
<p>2-7 自律的な学習習慣が身に付くよう指導・評価計画とテスト作成を工夫する。</p>	<p>計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満</p>	<p>生徒アンケート⑬肯定的評価50% 保護者アンケート⑭肯定的評価64% 教職員アンケート肯定的評価82% (生徒について⑬) 【判定:C】前年度:C 生徒:-11%、保護者:-1%、 教職員:+5%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価は昨年度同様のC評価であった。保護者の肯定的評価は昨年並みであったが、生徒の肯定的評価は-11%であった。</li> <li>家庭学習の習慣化、フォーサイトの活用など、計画的・自主的に学習を進められるよう各学年でより具体的に取組を工夫する必要がある。</li> </ul>

【重点目標3】 道徳教育やキャリア教育の充実及び積極的な生徒指導の推進を通して、高い志と人を大切にできる豊かな人間性、主体的に行動できる強い心を持った生徒を育成する。

<p>3-1 道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて、理想の実現や人を大切にできる心、より良い社会の実現を目指すなどの道徳性を育む。</p>	<p>道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自己の成長や人を大切にできる心が深まったことを感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>生徒アンケート⑮ 肯定的評価92% 【判定:A】 (前年度:A +1%)</p>	<p>・昨年度同様に引き続き肯定的評価はA評価であった。 ・推進教師を中心に取組を行い、計画的に授業等を進めていきたい。</p>
<p>3-2 総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。</p>	<p>将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>生徒アンケート⑯ 肯定的評価77% 【判定:C】 (前年度:C -1%)</p>	<p>・昨年度から大きな変化はなく、引き続き肯定的評価はC評価であった。また、各学年、D「まったくあてはまらない」と回答する生徒が数%いる結果となった。 ・しっかりと夢や目標を持ってなくても、夢や目標を見付けるための考え方や生活の仕方などを指導するなどの工夫が必要である。</p>
	<p>キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>生徒アンケート⑰ 肯定的評価86% 【判定:B】(前年度:A -6%)</p>	<p>・肯定的評価は86%と昨年度比べ-6%減少し、B判定となった。1年生のA「よくあてはまる」と回答した生徒が前年度と比べ-9%減少した。 ・キャリア教育の意義を伝えるだけでなく、様々な活動とキャリア教育とのつながりなどにもふれるなどの工夫が必要である。</p>
	<p>将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>生徒アンケート⑱ 肯定的評価75% 【判定:C】 (前年度:C -3%)</p>	<p>・肯定的評価は75%と昨年度と比べ大きな変化はなかった。 ・キャリア教育の中で、将来に向かって自分が何を考え、どのように行動できるかを考える場面などの設定を行うなど、取組の工夫が大切である。</p>
<p>3-3 学級会活動や生徒会活動において、1年生から段階的に話し合い活動や自治的な活動に取り組ませ、自主的・実践的な態度を育てる。</p>	<p>色々の活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満</p>	<p>生徒アンケート⑳ 肯定的評価91% 【判定:A】 (前年度:A +1%)</p>	<p>・肯定的評価は昨年度から大きな変化はなくA判定であった。 ・後期においても、様々な行事等が行われるため、主体性を大切にしたい指導をより充実させていきたい。</p>

【重点目標4】 教職員の働き方や業務改善に関しての意識改革を図るとともに、学校経営について積極的に情報を公開し、安心して学べ、信頼され、県民からより選ばれる学校づくりを行う。

<p>4-1 長時間勤務をやむなしとするこれまでの働き方を見直し、限られた時間の中で教職員の専門性を生かしつつ、教材研究・授業準備や子供たちと向き合う時間を確保する。</p>	<p>時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0~2人 C 2~4人 D 4人以上</p>	<p>時間外勤務時間月80時間を超える教職員の数月平均4.8人(4~7月) 【判定:D】 (前年度:D 月平均+0.5人)</p>	<p>・前年度と比べて判定は変わらず、月平均は+0.5人と少しだけ増加した。 ・働き方改革や業務改善と絡め、それぞれの負担が少しでも減っていくような働きかけをしていきたい。</p>
<p>4-2 中高一貫教育校に対する生徒及び保護者の期待やニーズを分析し、より望まれる学校づくりを目指す。</p>	<p>中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満</p>	<p>保護者アンケート⑳ 肯定的評価90% 【判定:A】 (前年度:C +6%)</p>	<p>・肯定的評価は、昨年度と比べ+6%増加し、90%となりA判定となった。 ・HPによる学校の様子・各学年の通信の発行などは定期的に行っている。今後もニーズに対応しながら、発信を続けていきたい。</p>
	<p>秋の学校説明会参加者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満</p>		<p>・春の学校公開は、児童・保護者等合計557名(3日間)の参加。夏のオープンキャンパスは、児童・保護者等合計549名の参加があった。</p>
	<p>適性検査の受験者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満</p>		<p>(R7.1月実施予定)</p>